

## 令和6年度 千曲市在宅医療・介護連携推進委員会 会議録概要

日 時 令和6年7月26日（金）午後7時00分～8時30分

会 場 千曲市役所 302 会議室

出席者 委員 13 名

事務局 7 名 オブザーバー 1 名

### 1 会議事項

#### (1) 委員長選出

千曲市在宅医療・介護連携推進事業実施要綱に基づいて選出

委員長：千曲医師会代表 高澤委員

副委員長：居宅部会 飯島委員

#### (2) 在宅医療・介護連携事業概要

#### (3) 令和5年度事業報告

#### (4) 令和6年度事業計画

(2) から (4) まで事務局からまとめて説明

以下質疑応答

委員： 事業報告の中の「地域住民への周知」の項目で、いきいきサロンでの紙芝居やパンフレットでの説明とあるが講話後の理解度のアンケート調査は行っているのか。こちらが伝えていても理解されていない場合も実際はある。人生最終段階の話、縁起でもないと言われる可能性もある内容なので受ける側にとってのハードルの高さはあると思う。

事務局：アンケートは取っていない。講話後、市民から直接感想を口頭でいただいたり、感想用紙をもらっているが、「初めて聞いた内容だったので家族と話合ってみます。」という感想が多い。「ショッキングな内容だった。」とならないように気をつけて話をしている。

#### (5) ACP に関わる啓発用資料及び書式の作成準備について

事務局から説明

以下質疑応答

委員： 「高齢者実態調査」の R4 と R1 の結果を比較すると「人生の最期の迎え方」の話し合いが疎かになってきている、R1 のアンケートでは「わからない」という選択肢がなかったが、最期を「自宅で迎えたい」と言っている人が減っているという印象を受ける。全国で老々世帯・独居の人が増えている。生活の様態も変わってきている。体調が悪くなって病院に搬送されると家族の延命への意思が変わってしまうことがあるにしても、あらかじめ意思を決めておいて欲しいと現場から

の声もある。千曲中央病院に協力していただいて、と事務局から提案があったが  
いかがか。

委員： 救急で受診する方は高齢者が多い。歩けない、食べられない、寝たきりといっ  
た状態になってどこまで治療をしていくかが悩ましい。誤嚥性肺炎や尿路感染症  
等は、できるだけ2次救急など地元の病院で見るように国が方針を出してきてい  
る。自分の家族に何か起こったとき、入退院を繰り返す人については、ある程度  
方向性を書面に残すことも含めて方向性を決めておくことが一番良いと考える。  
体調が良くなって自宅や施設に帰っても、また病院に戻ってくることがある。そ  
の過程の中でお亡くなりになることもある。病院は急変時の同意を書面で取って  
いるが、それは絶対ではない。いつでも撤回できると一文入れてある。行政と話  
し合い、ひな形を提示できればと思う。

委員： 自宅で亡くなりたいと思う方が減っているのは意外だった。老々世帯、独居の  
方も増えてきたという事もあるかもしれない。できるだけ家で看取りたいと希望  
される方は訪問看護でも支援していきたい。

委員： （自分の所属する）介護施設では看取りはやっていない。施設でできる限界ま  
で介護をしている。しかし、本人はできるだけ施設で見てほしい、家族は病院で  
見て欲しいと意見が合わない場合がある。そこを統一していただきたい。

委員： 現実的に溝を埋めるのは難しい。亡くなるまでの過程、延命治療、救命措置に  
ついて一般の人は理解がない。患者がどんなことをされるのかわからない。心臓  
マッサージで胸部骨折する場合もある。それを知ってもらうことも必要。

若い人がどれくらいこの地域に残るのか、同居することが難しい社会情勢の中  
で、尚のこと書面に残して意思を統一しておく、同居ができないからこそ、まと  
めておいてもらうのが大事なことでは。急変時に「こう決めたよね」と示せるも  
のがある事で皆が困らなくて済むのではと思う。

事務局： 書式を作るにあたり、こんな職種に入ってもらって意見を聞いたらよいのでは  
という意見があれば教えて欲しい。

委員： 歯科医師には入って欲しい。誤嚥性肺炎の問題もある。口腔ケアの問題もあ  
る。

委員： 最期のケアとなると、看護、介護系の人が入ったほうが良いのでは。日常生活  
の観点から見てもらう人に入っていただくのも必要では。

事務局： 意見を聞かせていただきながら進めていきたい。

## 1. その他 なし

以上